

平成26年度安全研究評価票

平成27年7月

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(A01) 国産システムコードの開発	
実施期間	平成24年度～平成30年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは、一次元版のコードについて詳細な設計書を作成し、データ構造の設計を実施した。また、熱流動試験を実施した。なお、新規制基準の適合性審査より得られた新知見の検証を通じて、研究の焦点及び進め方を再検討した結果、実施内容の変更が必要となり、実施内容を限定するか又は翌年度の実施とした。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、継続とする。 ただし、コードの全体像を分かりやすく示すとともに開発段階を明確にする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。 また、平成27年度に特に重点的に実施するプロジェクトであるにもかかわらず、計画の遅れが生じているため、計画の遂行を加速する必要がある。 加えて、「A04 軽水炉の事故時熱流動の技術的知見の整備」のうち原子炉熱流動実験を本プロジェクトに統合する。</p>
特記事項	<p>国産システムコードの開発は、我が国として継続的かつ安定的に設計基準事象及び多重故障事象に関して最新知見に基づく審査を行い、規制を高度化するために不可欠な研究であるため。ただし、当該コードの開発段階を明確にするとともに、開発の進捗状況を適宜論文等で公表する必要があるため、特に重点的に実施していく。</p>	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(A02) 熱流動・核特性安全解析手法等の整備 (Phase-2)	
実施期間	平成25年度～平成29年度	
担当	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成26年度) に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、プラント運転時の異常な過渡変化、設計基準事故及び核熱結合に係る解析コードの高度化を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項	研究の実施に当たって、OECD/NEAなどの多国間による国際枠組みを積極的に活用していることは、評価できる。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で (複数プロジェクト間の組換えを含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(A03) 多重故障事象の安全評価手法の整備	
実施期間	平成25年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、BWRの多重事故事象に係る解析並びにPWRの設計基準をこえる外部事象及び運転停止時の事故に係る解析を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項	<p>炉心損傷防止対策の有効性評価に係る事象進展解析の結果を取りまとめたNRA技術報告「炉心損傷防止対策の有効性評価事象の分析（PWR）」を公表し、審査に活用された。</p> <p>BWRの多重故障事象に係る技術的知見を更に収集し、最新知見に基づく審査を行う必要があることから、本プロジェクトの重要性が高いため、特に重点的に実施していく。</p>	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-2. 軽水炉の事故時の熱流動現象に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A04) 軽水炉の事故時熱流動の技術的知見の整備	
実施期間	平成24年度～平成31年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、原子炉熱流動実験に係る高圧熱流動ループの整備及びスケーリング実験並びに大型格納容器実験に係る基本部分の製作を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、効果的に研究を実施するため、本プロジェクトのうち原子炉熱流動実験については「A01 国産システムコードの開発」、格納容器実験については「B01 シビアアクシデント試験と国産解析コード開発」と統合する。 ただし、コードの検証にどのようなデータが不足しているのかを明確にする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A05) 使用済燃料プールの規制課題に関する安全研究 (Phase-1)	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成26年度) に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトで実施するスプレー冷却に係る熱流動試験については、海外機関との研究方式の調整等の当初予見し得なかった状況が生じ、研究方式の特定を慎重に進めた結果、本年度の実施を見送った。なお、当該試験に関する予備解析については、計画どおり実施した。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、継続とする。 ただし、これまで検討していなかった、スペーサ部のフレット磨耗等の現象についても考慮する等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で (複数プロジェクト間の組換えを含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-2. 使用済燃料の臨界防止に係る定量的評価に必要な技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A06) 使用済燃料の臨界防止裕度の定量的な評価 (Phase-1)	
実施期間	平成25年度～平成27年度	
担当	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成26年度) に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、使用済燃料に対するHTC (Hauts Taux de Combustion: 高燃焼) 臨界実験データを取得した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で (複数プロジェクト間の組換えを含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-4. 燃料の規制基準に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A07) 燃料破損限界に関する研究	
実施期間	平成19年度～平成33年度	
担当	安全技術管理官(システム安全担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは計画どおり、燃料被覆管機械特性試験及びJAEAが開発した燃料挙動解析コードFEMAXIを利用した解析を実施した。</p> <p>ただし、出力急昇試験については、試験用燃料棒を海外へ移送するための船積み港が、東日本大震災により被災し、その復旧が遅れているため、試験用燃料棒を輸送できない状態が続いており研究を進めることができなかった。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	東日本大震災により被災した船積み港の復旧作業の遅延
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、継続とする。</p> <p>ただし、他分野の知見にも留意しつつ結果の評価及び取りまとめを進める等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。</p> <p>また、ハルデン炉への試験燃料棒輸送が不可能な場合の代替手段として、JMTRでの照射を検討しているが、試験実施可能な試験炉の状況、試験燃料棒輸送上の制約等を調査・検討の上、ハルデン炉及びJMTRでの照射が研究実施期間内で見込めない場合も考慮する必要がある。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-4. 燃料の規制基準に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A08) 混合酸化物燃料特性評価に関する研究	
実施期間	平成19年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、MOX燃料に係る照射特性評価試験及び熱特性評価試験を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続する。 ただし、MOX燃料の熱伝導率評価において、O/M比（酸素原子数と重金属原子数の比）の影響を考慮する等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-4. 燃料の規制基準に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A09) 事故時燃料冷却性評価に関する研究	
実施期間	平成25年度～平成30年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、冷却材喪失事故時に細片化した燃料ペレットの被覆管膨れ部への移動に係る局所出力上昇の燃料被覆管温度への影響について解析を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ 無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-4. 燃料の規制基準に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A10) 燃料等安全高度化対策事業	
実施期間	平成18年度～平成29年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは計画どおり、改良型燃料に係る反応度事故及び冷却材喪失事故の模擬試験及び解析を実施した。また、ハルデン炉を用いた改良合金被覆管の照射成長試験を実施した。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、継続とする。 「従来の被覆管と照射成長の機構は変わらないということを押さえている」、「高燃焼に対応した中性子照射実験計画が立てられている」、「論文投稿・学会発表等も数多くなされており、今後の進展が期待される」等の肯定的な評価コメントがあった。 一方、「事故時の燃料挙動など、実際に実験を行わないと分からないデータもあるので、得られた模擬試験結果を適切にフィードバックすることが望ましい」等の今後対応又は検討を必要とする評価コメントがあった。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-5. 運転期間延長認可制度及び高経年化対策制度に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A11) 軽水炉燃材料詳細健全性調査	
実施期間	平成18年度～平成30年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、照射キャプセルの製作といたった照射試験装置の準備、原子炉圧力容器鋼及び炉内構造物用ステンレス鋼の照射材試験を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	東北地方太平洋沖地震以降、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の材料試験炉JMTRが運転停止状態であり、照射試験が実施できないため、計画を見直している。
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、継続とする。</p> <p>ただし、炉内試験と数値解析の結果の差異について理由を明確にする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。</p> <p>また、原子炉圧力容器鋼の照射脆化試験については、古いプラントの廃炉が決定された状況において、その材料（高不純物量の材料）に対する試験の必要性について検討が必要である。</p> <p>加えて、JMTRを活用した照射試験を検討しているが、研究実施期間内に同炉の再稼働が見込めない場合についても考慮する必要がある。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-5. 運転期間延長認可制度及び高経年化対策制度に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A12) 運転期間延長認可制度及び高経年化対策制度に係る技術的知見の整備に関する研究	
実施期間	平成23年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、電気・計装設備の健全性評価手法に係る研究を実施した。また、コンクリートの複合劣化、放射線照射による強度劣化、アルカリ骨材反応に係る試験を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは継続とする。</p> <p>ただし、一般産業界のデータも活用しつつ研究を実施する等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。</p> <p>また、電気・計装設備については、その審査において、設計基準を超えた時点で機能が喪失すると想定されることから、重大事故環境条件下での使用が想定されるものに対象を限定し、試験研究を実施する必要がある。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-6. 原子炉水質管理技術に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A13) 原子炉水質管理技術高度化対策事業	
実施期間	平成24年度～平成26年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、原子炉冷却材中の材料の腐食電位（ECP）解析コードを整備し、終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、平成25年度の年次評価の際において、当初計画されていた照射試験の要否を含め研究計画を見直し、平成26年度で終了することとした。</p> <p>現時点での規制への成果の活用は認められないため、適宜活用できるよう対応する必要がある。</p> <p>解析モデルの不確かさを明確にする等、技術的観点からの評価に今後対応が必要か検討するとともに、学会等において成果を公開する必要がある。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(A14) 高速炉(もんじゅ)に対するSA対策の安全審査要件の整備	
実施期間	平成25年度～平成29年度	
担当	安全技術管理官(システム安全担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、高速炉に係るシビアアクシデント(SA)対策の有効性評価及び炉心損傷に係る解析を実施した。また、炉心損傷時の炉心溶融物の挙動に係るデータを実験により取得した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	2. 特定原子力施設	
研究分野名	2-2. 燃料デブリの臨界評価手法に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A15) 福島第一原子力発電所燃料デブリの臨界管理評価手法の整備	
実施期間	平成26年度～平成33年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、燃料デブリの臨界リスク評価基準及び環境影響評価手法の整備に着手した。また、臨界実験による臨界リスク評価基準の検証のため、JAEAが所有する臨界実験装置STACYの改造に着手した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(A16) 海水腐食評価事業	
実施期間	平成24年度～平成26年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、炭素鋼、ステンレス鋼及びアルミニウム合金の腐食評価に係る試験を実施し、評価手法を整備し、終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、終了する。 現時点での成果の規制への活用は認められないため、適宜活用できるよう対応する必要がある。 炭素鋼の腐食進展モデルについて適用法を検討する等、技術的観点からの評価に今後対応が必要か検討するとともに、成果を学会等で公表する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-5. 火災防護に係る審査のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A17) 火災防護対策の高度化に係わる調査・試験	
実施期間	平成23年度～平成27年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、火災力学ツールの整備並びにケーブル火災及び高エネルギー・アーク火災に係る試験データを取得した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、アークモデルについて、投入エネルギー一定条件が適切かを確認すること、より機構論的な視点から検討を行うこと等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項	<p>研究の実施に当たって、米国原子力規制委員会（以下「NRC」という。）や仏国放射線防護・原子力安全研究所（以下「IRSN」という。）との二国間及びOECD/NEAなどの多国間による国際枠組みを積極的に活用していることは、評価できる。</p> <p>高エネルギーアーク火災に関する技術的知見を取得するとともに、「実用発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準」に基づき、事業者が実施する火災防護対策の有効性を確認するため、定量的な火災評価解析コードの整備が必要であり、本プロジェクトの重要性が高いことから、特に重点的に実施していく。</p>	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(A18) 人間・組織に係るソフト面の安全規制への最新知見の反映	
実施期間	平成26年度～平成30年度	
担当	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、根本原因分析評価プロセス運用マニュアル案等を作成した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。ただし、「D07 地震・津波等に係るリスク評価関連手法等の整備」の平成26年度中間評価における人間信頼性解析（HRA）の重要性の指摘があったことを踏まえ、計画の見直しを検討すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(B01) シビアアクシデント試験と国産解析コード開発	
実施期間	平成22年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、格納容器ベント評価試験、スクラビング個別効果試験及び海水注入影響評価試験を実施した。また燃料デブリの形成過程に係る解析手法の妥当性を確認した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、「A04 軽水炉の事故時熱流動の技術的知見の整備」のうち格納容器実験を本プロジェクトに統合した上で、以下の理由より3つのプロジェクトとして再編する。</p> <p><input type="checkbox"/>本プロジェクトは、国産解析コードの開発、重大事故に係る実験及び海外コードを用いた解析を主体とする研究の3テーマから構成されており、それぞれについて適切な時期に、より詳細な外部専門家からの評価を受け、研究成果の質を高めることが望ましいため。</p> <p>開発コードの利用方法を考慮した開発計画とする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。</p>
特記事項	<p>研究の実施に当たって、NRCやIRSNとの二国間及びOECD/NEAによる国際枠組みを積極的に活用していることは、評価できる。</p> <p>国産解析コードの開発及び同開発に不可欠なシビアアクシデント試験は、我が国として継続的かつ安定的に、シビアアクシデント対策、アクシデントマネジメント策、防災対策等の妥当性を確認するために不可欠な研究であるため、特に重点的に実施していく。ただし、当該コードの開発段階を明確にするとともに、開発の進捗状況を適宜論文等で公表する必要がある。</p>	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(B02) アクシデントマネジメントの知識ベース整備	
実施期間	平成15年度～平成26年度	
担当	安全技術管理官(シビアアクシデント担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、プラントレベルの事故新手挙動、溶融炉心とコンクリートの相互作用(MCCI)、燃料-冷却材相互作用(FCI)及び水素燃焼に係る解析手法を整備し、終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、終了する。 評価対象となる現象及びその解析に係る入力データの不確かさを考慮し検討する等、技術的観点からの評価に今後対応が必要か検討するとともに、成果を学会等で公表する必要がある。
特記事項	格納容器破損防止対策の有効性評価に係る事象進展解析の結果を取りまとめたNRA技術報告「格納容器破損防止対策の有効性評価に係る重要事象の分析(PWR)」を公表し、審査に活用された。 研究の実施に当たって、NRCとの二国間及びOECD/NEAなどの多国間による国際枠組みを積極的に活用していることは、評価できる。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(B03) シビアアクシデントの事故シナリオに係る知見の整備	
実施期間	平成25年度～平成27年度	
担当	安全技術管理官(シビアアクシデント担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、代表的なPWR及びBWRプラントを対象とした事故シナリオについて、熱流動解析コード及びシビアアクシデント解析コードを用いて事象進展を解析した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(B04)シビアアクシデント晩期の格納容器閉じ込め機能の維持に関する研究	
実施期間	平成17年度～平成26年度	
担当	安全技術管理官(シビアアクシデント担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、格納容器ソースターム評価手法を整備した。また、過剰水素処理試験を実施し、実機規模での処理能力を評価し、終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、終了する。</p> <p>現時点での成果の規制への活用は認められないことから、適宜活用できるよう対応する必要がある。</p> <p>「B01 シビアアクシデント試験と国産解析コード開発」において、得られた成果を今後の試験研究及び国産解析コード開発に着実に反映・活用させる等、技術的観点からの評価に今後対応が必要か検討するとともに、成果を学会等で公表する必要がある。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(B05) 被ばく評価手法の高度化研究	
実施期間	平成17年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、重大事故時の制御室・緊急対応居住性に係る被ばく評価コードを整備した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、被ばく評価コードにおける設定条件の保守性について留意した上で研究を進める等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(B06) PRAの活用に係る検討と基盤整備	
実施期間	平成26年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官(シビアアクシデント担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、内部火災レベル1PRAに過酷度因子の算出方法の整備等を実施した。 特に、安全性向上評価で発電用原子炉設置者から届出されるPRA結果を確認するためのマニュアルを整備していることは評価できる。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項	安全性向上評価において、その妥当性確認で使用される内部溢水及び内部火災に係るPRA手法を整備する必要があることから、本プロジェクトの重要性が高いため、特に重点的に実施していく。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(B07) 防護対策の実効性向上のための整備	
実施期間	平成26年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、EAL（Emergency Action Level）評価ガイド案及びETE（Evacuation Time Estimate）ガイド案の整備に必要な要件を整理した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(B08) 緊急時対応要員スキル向上方策研究	
実施期間	平成26年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、緊急時対応技術マニュアルのオンサイト対応編及びオフサイト対応編の枠組みを策定した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	2. 特定原子力施設	
研究分野名	2-1. 特定原子力施設における放射性廃棄物・廃液の管理に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(C01) 福島第一原子力発電所事故による放射性廃棄物の取扱いに関する研究	
実施期間	平成26年度～平成31年度	
担当	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、福島第一原子力発電所敷地内におけるSr-90及びCs-137等の核種について、収着分配係数・拡散係数に係る試験及び調査を実施し、データベース化を行った。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	2. 特定原子力施設	
研究分野名	2-3. 破損燃料輸送に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(CO2) 破損燃料輸送に係る技術調査	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官(核燃料廃棄物担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、海水成分やハロゲンが共存した場合の水の放射線分解に及ぼす影響を水素の定常濃度測定試験により評価した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>(注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、継続とする。</p> <p>ただし、故障モード影響評価(FMEA)手法、What if手法などを用いた簡易なリスク評価での活用についての検討等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。</p> <p>また、破損燃料輸送時の水素発生について、国内における燃料輸送の状況を鑑みると、これまで取得した技術的知見にて評価は可能であると考えられるため、早急に評価手法を整備すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	5. バックエンド	
研究分野名	5-2. 廃棄物埋設に係る審査のための評価技術の整備	
プロジェクト名	(C03) 第二種廃棄物埋設の規制基準整備に係る研究	
実施期間	平成25年度～平成29年度	
担当	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、第二種廃棄物埋設施設及び研究施設の廃棄物の処分施設の審査に向けた課題を抽出した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続する。
特記事項	現在検討が行われている余裕深度処分施設に係る規制基準の策定に必要なとなる技術的知見を取得する本プロジェクトの重要性は高いため、特に重点的に実施していく。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(C04) 加工施設のリスク評価に係る研究	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、MOX燃料加工施設について地震を起因とした総合安全解析（ISA）試解析を実施した。また、六フッ化ウラン漏えい事故時の化学的影響の評価手法を整備した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、適用経験の少ない評価項目の評価に当たっては、結果の信頼度及び効率性の観点からも継続して検討をする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(C05) 再処理施設のリスク評価に係る研究	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官(核燃料廃棄物担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、再処理施設について地震を起因としたPRA試解析を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、他の核種の放出量をセシウム137の放出量に換算するという考え方について、防護対策の考え方、土壌の除染技術の進展等を注視しつつ、必要に応じて再検討をする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	4. 核燃料サイクル	
研究分野名	4-2. 再処理施設における高経年化対策の妥当性評価に係る技術的知見の整備の整備	
プロジェクト名	(C06) 商用再処理施設保守管理技術等に係る研究	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、商用再処理施設を対象にデポジット腐食、応力腐食割れ及び水素吸収ぜい化割れに係るデータを取得した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、劣化事象のメカニズム及び影響因子を明確にする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	4. 核燃料サイクル	
研究分野名	4-1. 放射性物質の貯蔵・輸送に係る審査のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(C07) 使用済燃料等の貯蔵・輸送分野の規制高度化研究	
実施期間	平成17年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官(核燃料廃棄物担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、PWR使用済燃料先行貯蔵試験により貯蔵試験容器温度評価ツールの検証を行った。また、JAEAで開発された遮蔽コードPHITSの高度化を行った。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・終了	
	コメント	本プロジェクト中の調査項目については安全研究外とし、解析コードの開発・整備を中心としたプロジェクトとする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D01) 震源断層評価技術の整備	
実施期間	平成25年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、層位学的手法及び断層破砕物質を用いた活断層の年代評価手法、並びに活断層のセグメント区分と連動性の評価手法について検討した。また、地震ハザード評価手法及び余震による地震ハザード評価手法を検討した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D02) 地震動評価技術の整備	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官(地震・津波担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、地震動評価における震源断層パラメータの設定、三次元地下構造モデルの高精度化と簡便かつ実用的なモデル化手法の構築、断層変位評価手法構築に係る検討を行った。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、地震調査推進本部との関係を明確にする、解析結果の不確かさを評価できる手法を整備する等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-2. 基準津波策定及び津波評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D03) 津波ハザード関連評価技術の整備	
実施期間	平成25年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官(地震・津波担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、三次元津波解析コードを用いた東北地震津波の再現解析を実施した。また、津波による土砂移動を模擬した水理試験を実施した。さらに、既往の土砂移動モデルを改良し解析精度を向上させた。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成27年度の方針	継続・見直し・終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項	安全性向上評価において、その妥当性確認で使用される津波に係るPRA評価のうち津波ハザードを評価するための手法を整備する必要があることから、本プロジェクトの重要性が高いため、特に重点的に実施していく。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D04) 原子力施設における地質構造等に係る調査・研究	
実施期間	平成25年度～平成29年度	
担当	安全技術理官(地震・津波担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、横ずれ断層地域における物理探査及び逆断層地域における深部ボーリング調査を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D05) 福島第一事故を踏まえた震源極近傍の地震動評価の高度化	
実施期間	平成25年度～平成26年度	
担当	安全技術管理官(地震・津波担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、震源極近傍の地震動評価手法を整備するための動力的破壊シミュレーションや強震動評価、長大断層による内陸地殻内地震を対象とした断層モデルの設定方法の検討や地震動の試算を実施し、終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、終了する。</p> <p>現時点での成果の規制への活用は認められないことから、適宜活用できるよう対応する必要がある。</p> <p>「D02 地震動評価技術の整備」において、震源極近傍の地震動評価手法の不確かさ及び適用範囲を明確にする等、技術的観点からの評価に対応するとともに、成果を学会等で公表する必要がある。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-3. 地震・津波等に対する構造健全性評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D06) 外的事象に係る構造健全性関連研究	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官(地震・津波担当)付	
プロジェクトの計画(平成26年度)に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、防潮堤の津波波力に対する試験、水密扉の浸水防止機能に係る試験及び斜面崩壊後の土砂・岩塊の転動に係る試験を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	継続・見直し・終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、防潮堤の試験及び解析について、結果の差異の原因を明らかにする等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。
特記事項	防潮堤の津波に対する構造健全性を評価するに当たっての津波の波圧特性に関する NRA 技術報告「防潮堤に作用する津波波圧評価に用いる水深係数の適用範囲について」を公表し、審査に活用された。 新規制基準に基づく防潮堤の構造健全性に関する審査に向けて、防潮堤に作用する段波波圧と持続波圧の評価における適用範囲等の確認が必要となることから、本プロジェクトの重要性が高いため、特に重点的に実施していく。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-3. 地震・津波等に対する構造健全性評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D07) 地震・津波等に係るリスク評価関連手法等の整備	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、地震・津波に係るPRA手法の高度化を実施した。また、竜巻及び強風によるPRAモデルの試作及び試解析を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。 ただし、地震起因の火災、溢水等の現在までに考慮していない事象についても今後検討する等、技術的観点からの評価に対応する必要がある。 また、経年に伴うフラジリティの検討については、その成果の反映先を明確にする必要がある。
特記事項	安全性向上評価において、その妥当性確認で使用される地震及び津波に係るPRA評価手法を整備することから、本プロジェクトの重要性が高いため、特に重点的に実施していく。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H26年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-4. 火山影響に係る審査のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D08) 火山影響評価に係る技術的知見の整備	
実施期間	平成25年度～平成30年度	
担当	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成26年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画どおり、過去に大規模噴火した火山の活動履歴を調べるとともに噴出物の岩石学的検討を実施した。また、広域地殻変動パターンに係る数値解析を実施した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成27年度の方針	<input type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、継続とする。
特記事項	火山活動のモニタリング手法、指標に係る技術的知見の拡充を図る必要があることから、本プロジェクトの重要性が高いため、特に重点的に実施していく。	

注) 継続 : 平成27年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成27年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成26年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト